

ならの木便り



和菓子・菜園のことなど

毎日のように報じられるコロナウイルスの流行の様子、先が見えない不安感がありましたが、医療従事者の接種に始まり、高齢者の接種が急ピッチで進み始めました。私の周りでも、接種を済ました人が増え始めております。長かったコロナによる閉塞の日々も先が見えてきたようで、明るい気持ちになり始めた今日この頃です。

連休明けには、動物村の方からアヒル用のフェンスを頂き、一日中狭い小屋にいるてこちゃんを気の毒に思っておりましたが、これからは多少は運動量が増えそうです。

先週には、例年行っている苗を植えました。

年中組はミニトマト、年組長はキュウリやナス、パプリカでした。

パプリカについては、昨年、運転手の千葉さんが黄色と赤の苗を持ってきて実をつけたのを、子どもたちは、その色が変わっていくのを楽しんでいたのが、今年も赤・黄・紫の三色を鉢に植えました。今年は皆に味を楽しませたいと思っております。

私は年中クラスのところ、子どもたちが小さなスコップでそれぞれ、「大きくな～れ、大きくな～れ」と唱えながら、プランターに土を入れているのを聞きながら、(この言葉は土にかけるお呪いとちょっと違うのじゃないかな)と言いつつになりながら、黙ってそばに立って、一生懸命子どもたちがしていることを見ておりました。ミニトマトもしっかり植えました。年長クラスの苗も同じ頃に植え終わり、子どもたちは満足そうな顔をして保育室に戻っていきました。

幼稚園で収穫したものを食べさせることの有無については、心配なさる保護者の方がおられるかもしれませんね。私も、もし禁じられていることならやめなければならぬと思い、保健所に問い合わせしてみました。園で行っている状況を伝えたところ、キュウリやナスを塩もみしたり、収穫したミニトマトを食べるくらいなら、衛生法に違反しないということを確認して安心しました。野菜を収穫する頃には、これらの野菜が苦手だった子

らも、皆と一緒にうれしそうに食べる姿が楽しみです。

5月24日には、今年度初めてのお誕生会を行いました。密を避けるために各クラス教室で行いました。以前お知らせいたしましたが、今年度からは和菓子でお誕生を祝いました。

小さな紙皿に色千代紙を敷いて、竹の楊枝を用意しました。

何故ケーキから和菓子に替えたかを各教室をまわって、私は、子どもたちにお話に行きました。日本には、世界に誇る和菓子という素敵なお菓子がある。職人さんが長い間修行して心を込めて創り上げた和菓子、皆の大事な誕生日をその日本のお菓子でお祝いしたいということと、和菓子ひとつにも餅米や小豆やお砂糖が使われているけれど、それも元は命のあったもの、その命を頂く事への感謝と作って頂いた方への感謝の気持ちを持って食べましょう、ということをお話しました。皆は熱心に聞いておりました。

いろんなことに感謝の念を持つ、謙虚になると言うことは生きていく上で気持ちが楽になります。幸せな生活を望むなら、大切な考え方だと思います。

5月、男の子の節句があった月にちなんで、ショウブの花をイメージした可愛いお菓子を選びました。今回は、餅米の粉や小豆や求肥(白玉粉に砂糖を入れて練り上げた和菓子の材料)などを使った、紫と黄色を基調としたお菓子でした。

私は子どもたちが食べるか不安でした。楊枝で少しづつ口に運びながら、「おいしい」といって目を細める子がいたりするのにほっとしました。でも、食べられない子も各クラス2～3人いて、その対応にはどうしたらいいのか、課題が残ります。保護者の方々に、あえて和菓子にしたことについて理解して下さるよう、どうぞよろしくお願いいたします。

当初は、6月上旬にお芋の苗植えを予定しておりましたが、苗の入荷が早まり、急ぎよ、一週間早めることになりました。今年はこの畑の持ち主の原さんに、子どもたちに苗の植え方を指導して頂く事になっております。

きっと去年より大きなお芋が育つに違いないと、今から楽しみです。

浜野和子